

第2回魅力発信部会 まとめ

日 時：平成21年9月8日（火）19：00～21：00

場 所：上京区役所2階大会議室

出席者：鋤柄部会長，若林副部会長，出野委員（代理古谷委員），小川委員，山中委員，山本委員，
吉川委員

次 第

1. 開催趣旨説明
2. 第1回部会報告
3. 施策及び事業について
4. まとめ
5. その他

議 事

3. 施策及び事業について

【施策1について】

（区民文化活動の推進）

- ・ 具体的事業例で全て連携とあるが、あまり連携できていないのが現状であり、関係を密にしていればよかったと思うことがある。
- ・ 連携だけでなく推進していくことが必要。上京区全体で推進するようなニュアンスを加えてほしい。
- ・ 表現としてこの程度の抽象度でもよいが、踏み込んで記載できるのであれば書き加えた方がよい。区民文化活動が定義できているのかということでもある。どういう主体が、どのような運営をされることを想定しているのか。
- ・ 区が担う役割としては活動場所（箱）を提供することや情報提供で十分だとも考えられる。
- ・ 情報の共有が足りないことが実感としてある。
- ・ 区民文化活動の推進では言い切れない部分がある。

（地域の魅力発信）

- ・ 地域の魅力発信とあるが、これが意味していることが曖昧である。
- ・ 魅力発信という場合に、誰に何を発信するのかが重要である。
- ・ 情報発信という場合に、顔が見える状態をつくることが重要である。
- ・ 交流の場を創造するというところでもある。
- ・ マップを作成しても、実際の商売にどれだけの成果があったのか。商店街同士の意見交換の方が必要である。
- ・ 魅力発信とあるが、育てるというニュアンスの方が強いかもしれない。
- ・ 発信は外部への発信ということで整理された方がよいのではないか。
- ・ 顔の見える関係については、自治・安全部会の方で検討する内容でもあるが、こちらで再掲することも考えられる。

- ・ 地域の魅力発信という言い方は、地域の魅力の共有という言い方に変えたい。

(定住支援)

- ・ 定住支援というのは表現として直接的過ぎて、もう少し工夫が必要である。
- ・ 住まいについての話なので、そういうニュアンスの方がよい。
- ・ 町家とよくいうが、実際に借家として流通するものはない。希望的観測で記載しない方がよい。
- ・ 住み続けるための何かの施策は必要である。
- ・ 具体的に何が出来るかを考える必要がある。
- ・ 住みやすいまちづくりという表現も考えられる。
- ・ 住居との関係で、住まいということで表現したい。
- ・ 現在、町家に暮しているが不満はない。環境にやさしく、住みやすい。保全していく努力が必要ということもある。

(魅力ある教育環境の整備促進)

- ・ 教育環境だけでよいのか。教育環境というと小学生以上となる。子育てについて含める必要があるのではないか。
- ・ 子育てについては、福祉・健康部会での検討テーマとなっている。
- ・ 人づくりということとは違うように思える。
- ・ 人づくりというのはどういうイメージなのか。
- ・ 魅力ある人づくりということでよいのではないか。
- ・ 人づくりと学校運営協議会の話は違う話なので、もう少し整理が必要である。
- ・ 学校運営協議会は元学区ベースで、子どもについては地域での教育ということ、大人については如何に地域活動に引き込むか、ということで活動している。
- ・ 学校という言葉を入れた方がよいのではないか。
- ・ 上京区は元々、番組小学校という学校をベースにした活動が続いている。隣接学区との切磋琢磨により今日の活動がある。
- ・ 学校という言葉を入れた表現としたい。

(賑わいと暮らしを支える商業の振興)

- ・ 広域連携という意味合いを加えてはどうか。商店街ネットワークまたは商業ネットワークという表現が考えられる。
- ・ まちづくりにつながるような表現にしたい。
- ・ 生鮮3品が消えたことが、商店街の衰退につながったと聞いたことがある。今、元気な商店街は観光に力を入れている。
- ・ 一般の買い物客は少なくなっているのが現状である。
- ・ 「歩いて、買って、食べて、遊んで」がベースとなっている商店街はどこも賑わっている。
- ・ 朝市を以前開催したが、大変賑わった。
- ・ 具体事業例に高齢者や障がい者に優しい商店街づくりということを盛り込んでほしい。
- ・ 北野商店街を含めた3商店街で、ジャンボタクシーを走らせられないかということは考えている。また買い物代行や配達サービスについても現在、検討している。

(大学と連携した地域の活性化)

- ・大学との連携というのは、法人としての大学と組んで、何かをするということか。それとも学生の自主的な活動と組んで、何かをするということか。意味合いが違ってくる。
- ・学生にとっては大学を通じた活動の方が参加しやすい。
- ・地域に掲示されているポスターでは参加しにくい。
- ・いきなり参加することには抵抗感がある。
- ・学生が自主的に参加することも含めて、コンセプトが違うかもしれないが、学生という言葉を加えてもらいたい。
- ・例えば、区役所が窓口となって地域と学生とをつなぐことはできないのか。
- ・情報が流れていても、初めてのところはなかなか行けるものではない。大学自身が、プログラムを構築して、事業として地域に入っていくことが求められる。

【施策2について】

(地域資源を生かしたイベントの創生)

(地域資源の編集と発信)

(町家保存の促進)

- ・地域資源の表現は改めたほうが良い。
- ・ピンとこない印象がある。区民の自慢という言い方ではどうか。
- ・地域の自慢も考えられる。
- ・区民の誇りではどうだろうか。
- ・施策1については、地域の自慢や誇りという言い方で良いと思うが、施策2については、端的に言えば、東京の方を如何に引き付けることができるか、という観点での表現が求められる。
- ・上京という言葉を使ってはどうか。
- ・西陣という言葉の方がイメージしやすい。
- ・西陣という言葉はよく使われているが、実際にはどこを指しているのかよく分からない。
- ・西陣と聞いて興味を持って訪れる方がいるが、何もなく、がっかりされる。織物のまちとして、何か見せる、アピールする仕掛けが必要だと思っている。
- ・例えば、バス停の名称を「西陣前」とするなど、無理矢理イメージできるようにすることも必要ではないか。
- ・事業のコンセプトとしてはこれでよい。地域資源ではなく、もう少し別の表現を考えてもらいたい。

【全体を通して】

- ・仕掛けによって人が集まる。そのために、人を引き付ける何か謳い文句が必要。
- ・上京を区民がもっと知ることが必要。また上京を外に打ち出していくことが必要。
- ・外国人観光客の誘致活動について市と区で取組が重なっているものがあり、役割分担をきちんとすることが必要。
- ・着地型観光ということで誘致活動をしているが、案内する人が少ない。また、先ほどもあったように、西陣という言葉は分かりにくい面がある。観光コンシェルジュを養成できれば、

魅力につながるのではないか。

- ・ 区民自身が顔を合わせて魅力を発信することで、本当に人に伝わる。
- ・ 情報提供も進化してきており、情報が集まるだけ、共有するだけから、一步進んで、大量のユーザーが関心を示していることが重視されてきている。例えば、映画情報なども、今は必ず観客のレビューが必ずあって、それを参考としている人が増えている。情報提供の工夫が必要。
- ・ ネットワークと情報の共有化がベースにある。例えば、商店街と上京区の魅力とを結びつけることはできないだろうか。
- ・ 上京区に住んでいる方も、住んでいない方も魅力を知ることができる仕掛けが求められている。